

## 平成30年度 奈良県学力・学習状況調査結果の概要について

### はじめに

平成27年度より実施されている「奈良県学力・学習状況調査」は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。

生徒の確かな学力・豊かな人間性・たくましい心身の育成には、学校と地域・家庭との連携が不可欠です。保護者におかれましては、今回の公表を通して、さらに教育への関心を高めていただく一つの機会となることを願っております。今後とも本校の教育に変わらぬご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

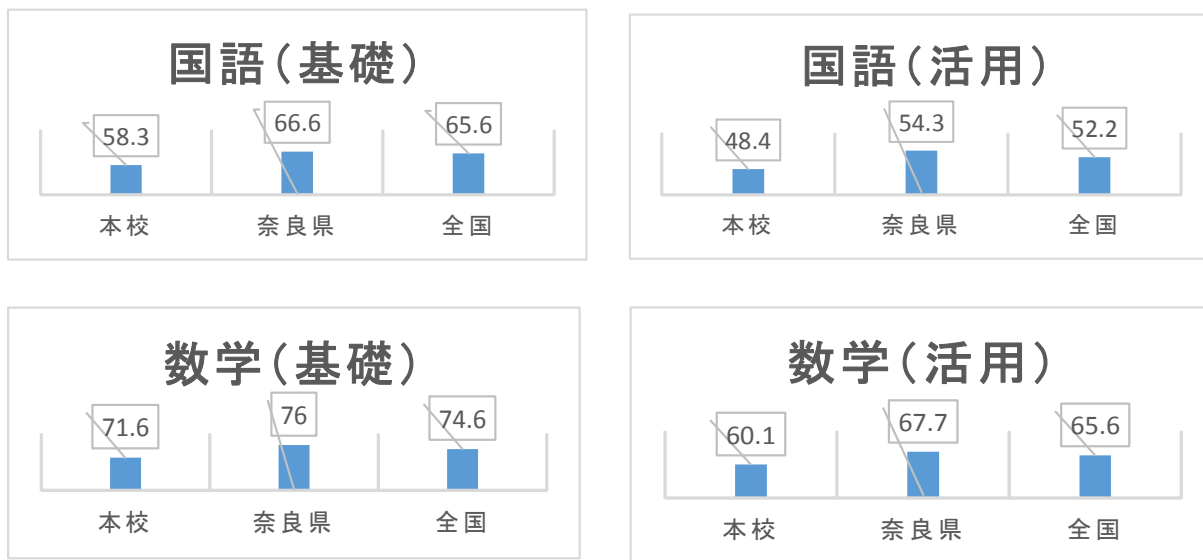
式下中学校 校長 木寅雅史

### 1. 調査の概要

- (1) 実施日 平成30年4月17日(火)
- (2) 調査対象 川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校1年生(109人)
- (3) 調査内容 <教科に関する調査：国語・数学>  
<質問紙調査：学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面などに関する調査>

### 2. 各教科の平均正答率

A問題は、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題、B問題は、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題、本年度においては、県平均との比較において4.4～8.3ポイント低い傾向にあります。



### 3. 各教科の領域等の状況について

#### 【国語】

- ・国語の全正答率は、校内平均正答率(56.1ポイント)－奈良県平均正答率(63.9ポイント)＝－7.8ポイントです。問題の内容別正答率をみると、奈良県とは、基礎力にかい離差が大きいです。課題は、「書くこと、短答、記述」の力と「言語における知識・理解・技能」の力です。
- ・カテゴリ別正答率は、県の平均より－3.9ポイントから－13ポイントの範囲です。これは、平成29年度実施対象者より、そのかい離幅が大き傾向にあります。

#### 【数学】

- ・数学の全正答率は、校内平均正答率(69.3ポイント)－奈良県平均正答率(74.3ポイント)＝－5ポイントです。問題の内容別正答率をみると、奈良県との活用にかい離差が大きいです。「量と測定」「数学的な見方や考え方」「記述」に課題があります。
- ・カテゴリ別正答率は、県の平均より－3.6ポイントから－9.2ポイントの傾向です。

◎本校では、県の傾向と比べた時、国語科の方が課題がある傾向にあります。

#### 4. 生徒質問紙調査より

##### 【教科に関する学習状況調査から】

- ・国語の勉強の大切さの理解（96.4 %）や数学の勉強の大切さの理解（95.4 %）は非常に高い傾向にあります。また、「社会に出た時に役立つか」についても、国語で 92.6 %、数学で 94.5 %の率で役に立つと考えています。
- ・理科の勉強の大切さの理解（67.9%）は、県より 14.5 ポイント低い傾向です。また、英語が好き（65.1%）は、県とほぼ同ポイントです。
- ・国語授業の理解度（82.6 %）や数学授業の理解度（82.6 %）や理科授業の理解度（84.4%）も比較的高い傾向です。
- ・小学校では、授業の初めに目標を示されていた（78.9 %）り、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた（80.7 %）という傾向で、平成 29 年度と比べて、10 ポイント程低い傾向です。また、小学校の授業で、先生の話をしっかり聞いていた（78.9%）は、県より 11.6 ポイント低いです。しかし、小学校では自分の考えを発表する機会があたえられていたのは 93.6%で、高い傾向です。

##### 【その他の学習状況調査から】

- ・「学校に行くのは楽しい」が 93.6 %で、高率です。学校が楽しい場であるよう教育活動を続けます。
- ・「ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがありますか」（92.7 %）は高い率です。この項目は 4 年連続で高い率で、より成功体験や達成感を感じられる取組を学校生活全般で進めます。
- ・「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」（96.3 %）、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」（98.1 %）も高い率です。今後も自己有用感や他者を大切に思う気持ちを醸成できる学習・事業やボランティア活動を実践します。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」（99 %）も高率です。いじめや不合理矛盾や差別を許さない教科・人権学習の推進を行います。
- ・「将来の夢や希望を持っていますか」は、81.7 %です。夢と希望をかなえられるように、授業や学校行事等を工夫していきたいと考えます。
- ・「学校の規則を守っていますか」は 96.3 %、「友達との約束を守っていますか」は 97.3 %です。規範意識の高さがうかがえます。友達・自分・学校を大事に思える学習を追求します。

##### 【家庭学習や地域に関する設問より】

- ・家庭学習において、「授業の復習をしていない」「自分で計画を立てて勉強をしていない」「1日あたり全く勉強をしていない」（県より 10 ポイント多い）傾向があります。また、普段（月～金曜日）1日当たりのテレビゲームを 1 時間以上するのが 64.2%で、県より 12.3 %高いです。また、携帯電話やスマートホンで通話やメール、インターネットを 1 時間以上するのが 39.5%で県より 10.6%高い傾向です。家庭での学習規律に大きな課題があります。家庭での携帯電話等の使用方法や時間についてのルール作りをお願いします。学校では、具体的な家庭学習の取組方法について継続的な指導を行います。
- ・「自分の住んでいる地域の行事に参加している」（67%）「自分の地域のことが好きである」（85.3%）の傾向です。また、「自分の住んでいる地域のことを学ぶ機会がある」（59.6%）で、県より若干高い傾向です。今後も地域に根差した教育活動を継続します。

#### 5. 学力向上に向けた今後の方向性について

- ・授業について、授業の目的（めあてやねらい）を明確にするとともに学習の振り返りができる手段を講じます。規律ある授業で分かりやすい授業づくりを、教職員が研修して実践します。
- ・何よりも授業規律を大切にしていきます。また、授業にディスカッション、スピーチ、グループ学習等の手法を取り入れます。
- ・「授業が分かりたい」から「分かった」、「分かった」から「その教科が好きだ」の好転的なスパイラルを目指します。
- ・教科の基礎と基本の力の充実のための反復練習を充実します。小テストや単元確認テストを利用したスモールステップで達成感や満足感をもたせる取組を推進します。
- ・学習の定着を図るために、学校教育と家庭学習の連携が重要です。予習、授業、復習のサイクルを定着させて学びの向上を図ります。
- ・中学校に入ってから不安を生徒が感じないようにするために、小中連携を大事にした取組（例えば部活体験や授業見学会等）の交流を推進します。